

第8回教育支援コーディネーター・フォーラム(報告⑤)

第2部 テーマ別分科会 (13時30分から16時00分まで)

□ 分科会 I 「『授業支援』を担うコーディネーターのための “調整力”“交渉力”アップ講座」 □ 【大会議場】

○分科会 I 企画の背景

「教育支援コーディネーター・フォーラム」は、平成22年度の第4回から東京都庁を会場に開催しています。この時から、午後には学校支援をテーマとした分科会を設けています。

過去4回の分科会は、フォーラム参加者であるコーディネーター、行政担当者、出展団体など企業・NPO等の関係者が、地域や立場を超えて、多様な教育支援プログラムを、効果的に学校教育に導入するためには何をすればいいのかを、交流し学ぶ機会としてきました。

現在、学校支援ボランティア推進協議会事業としてコーディネーターは約1,300名(都内小中学校約800校)に配置され、年々新たにコーディネーターとなる方が増えています。結果として、コーディネーターも、これからコーディネーターになる方や初年度の方、なかには8年以上の方と、様々な経験の方々が地域、学校で活躍しています。

こうした背景もあり、昨年度から午前中のプログラムとして「初めての方向けミニセミナー」を設けました。

今回の分科会では、学校支援のなかでも「授業支援」、多様な外部資源や教育支援プログラム等の「授業」への導入を視野に入れた、コーディネーターのもつべき観点や果たすべき役割をテーマとして企画されました。



○会場の様子

107名の方々が参加し、大会議場に用意された丸テーブル席には「授業支援」に関わっている又は志すコーディネーター当事者が着席し、後ろの階段席には企業・NPO等教育支援団体の関係者、行政関係者が着席し見学する形で行われました。



【司会進行】

○香月よう子(フリーアナウンサー、きてきて先生プロジェクト代表、第8期東京都生涯学習審議会委員)

【パネラー】

- 林久美子(杉並区立高井戸第三小学校学校支援本部 学校・地域コーディネーター)
- 白鳥円啓(板橋区成増小学校支援地域本部地域コーディネーター)
- 水木優香(文京区立駒本小学校支援地域本部 地域コーディネーター)
- 印南政江(杉並区立杉並第一小学校学校支援本部副本部長)



コーディネーターのみなさん



行政担当者、企業・NPO等のみなさん

○プログラムの流れ～コーディネーターが自らを振り返り考える機会

開会及び分科会趣旨説明

司会進行の香月さんからの、「授業支援を行っているコーディネーターがその役割の中で行われる交渉や調整に関わる気付きを得るための場です。御自身の経験を正直に振り返りつつ、現状からもう一歩前に進む方向性を見付けていきましょう」との呼びかけで分科会が始まりました。

前半（現状を振り返る）

- 個人ワーク&グループシェア（ディスカッション）①
- パネルディスカッション①

コーディネーターは、「授業支援」において、学校や地域の実態に応じて、多様なコーディネートを行っています。

あらためて、コーディネーター一人一人がどのような“理由”をもって、その都度外部の企業・NPO等や教員との関わりを選択しているのか、その道筋と理由を明らかにしていきました。



グループディスカッション

後半（これからを考える）

- パネルディスカッション②
- 個人ワーク&グループシェア（ディスカッション）②
- パネラーコメント&まとめ

前半に浮き彫りになった一人一人が抱える現状や課題を踏まえ、担当する学校にきちんとコミットして、本当に必要とされている「授業支援」の具体化とこれからのコーディネーターとしての果たすべき役割について考えていきました。



パネルディスカッション



前田地域教育支援部長のコメント

〔アンケートより〕

コーディネーター

- ・すごくためになりました。自分のこれからのコーディネーターとしての道しるべになりました。
- ・コーディネーターの役割として調整力の重要性を感じました。それぞれの実情に合わせられる柔軟性だけでなく、学校や授業、企業などの知識を身に付けなければならないと思います。
- ・色々なパターンの支援があることが分かり良かったです。パネリストが様々な経験を通して分かりやすく、説明してくださったので、より理解が深まりました。各地域の支援力の強さが感じられました。
- ・パネラーさんの生の声は、実際の事が浮かぶような話でしたので、かなり納得してしまいました。

企業等支援団体の参加者

- ・自社のプログラム向上に向けて参考になる意見が聞けた。
- ・見学という立場で参加しましたが、相手の方を知るいい時間になりました。
- ・コーディネーターの立場から見た企業の選び方、見方がよく分かった。私たち企業も個々の学校を知ることで、その学校に合うプログラムの提案、打ち合わせが大切だと思いました。
- ・地域に貢献されているコーディネーターの皆様の熱心さが伝わる内容でした。

その他

- ・〔教員〕小学校や中学校でどのような事が行われているのかが分かり、ためになりました。教育支援コーディネーターの方々が抱えている葛藤や思いを知ることができました。また、学校のことを本当に理解していらっしゃることに驚きました。
- ・〔学生〕自分自身は、教員を目指す身ではありますが、子供を学校を含む地域全体で温かく育てていきたいと、改めて考えさせられる時間となりました。